

教訓カップを作ろう

沖縄の石垣島のお土産品に「教訓茶碗」というものがありますが、それに似た教訓カップを作ります。この原理はサイフォンと呼ばれるものです。



作るときに使用する材料

- ・約200mlプラカップ 1個
(この場合、カップの底からの高さが約9cmになる)
- ・直径6mmストロー(蛇腹付き21cm) 2本
(ストローAとストローBとします。)

工作用道具

- ・ハサミ
- ・セロテープ
- ・6mmポンチまたは目打ち
- ・金槌

工作Ⅰ(プラカップの加工)

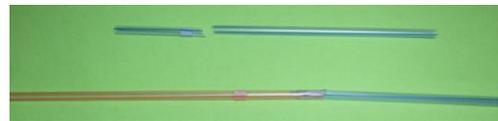
- ①プラカップの底に直径6mmの穴をポンチであけます。
(空き缶等の上に、カッターマット等を、空き缶の直径に切り、これを空き缶の上に置き、プラカップを上からかぶせる。)
- ・カップの中心から約1cm離れた所に穴をあける。
(底の直径が約4cmなので、中心より約1cm離れた部分に穴をあける。)



※目打ちの場合はストローが通ることを確認しながら、穴をあけて下さい。

工作Ⅱ(ストローの加工)

- ①21cmの蛇腹付きストローは、約15.5cm + 約1cm蛇腹 + 約4.5cmの構成になっている。
- ②ストローAの15.5cmの蛇腹の手前をハサミで斜め切りし、ストローBの蛇腹から4.5cmの部分に継ぎ足します。
- ③継ぎ足した部分をセロテープで固定します。
- ④ストローBを蛇腹部分で180度折り返し、セロテープで固定します。
- ⑤ストローの長い方の先をハサミで斜め切りします。



工作Ⅲ(プラカップにストローをセットする)

- ①プラカップの6mmの穴の部分に、ストローの先を斜め切りした部分をカップの内側から通します。
- ②一方のストローがプラカップの底につきますので、このストローの長さを調整します。
- ③ストローの蛇腹の部分が、カップの高さと同じになり、ストローの先がプラカップの底につくようにストローの長さを調整します。
- ④プラカップの6mmの穴から出ているストローも適当な長さに切りします。



これで完成です。カップに水を少しづつ入れていっても、水は外に出ませんが、蛇腹の高さまで水がくると、6mmの穴に通したストローから、水が出てきます。水はすべて出てしまいます。